

◇2014年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(高等学校)〈抜粋〉◇

この調査は2014(平成26)年度に実施された高等学校の修学旅行に関するものである。

今回の調査では、国内修学旅行実施率は83.3%であり、海外修学旅行を実施(13.5%)と合わせると96.8%の学校が修学旅行を実施している。これは、前年度の実施率(96.9%)とほぼ同レベルであり、2010年度には東日本大震災の影響で93.9%に落ち込んだものの、実施率ではほぼ震災前まで戻っていると言える。

この調査は、全国の国立・公立・私立等の高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	17	3,663	1,402	5,082
抽出校数	17	1,574	1,309	2,900
回答校数	2	555	392	949
回答率%	11.8	35.3	29.9	32.7

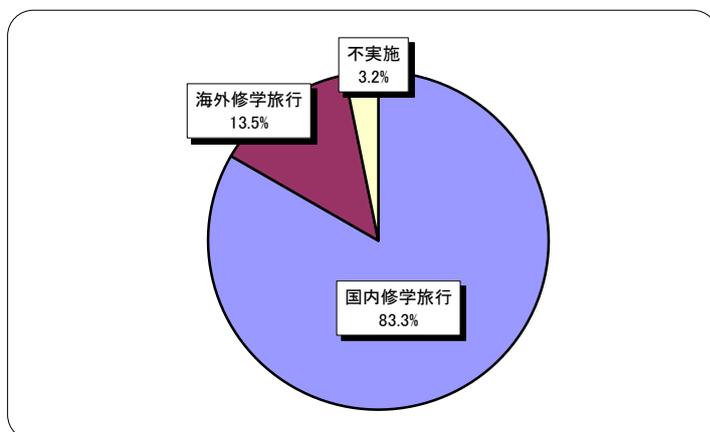
※ 回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況(2)不参加者の理由(3)実施時期(4)実施学年(5)保健指導のための引率者
(6)旅行日数(7)旅行費用(8)主な交通手段(9)旅行内容「活動、旅行先、見学生、行動形態、宿泊地等」
(10)班別自主行動(11)体験学習(12)防災(避難)訓練の取り組み

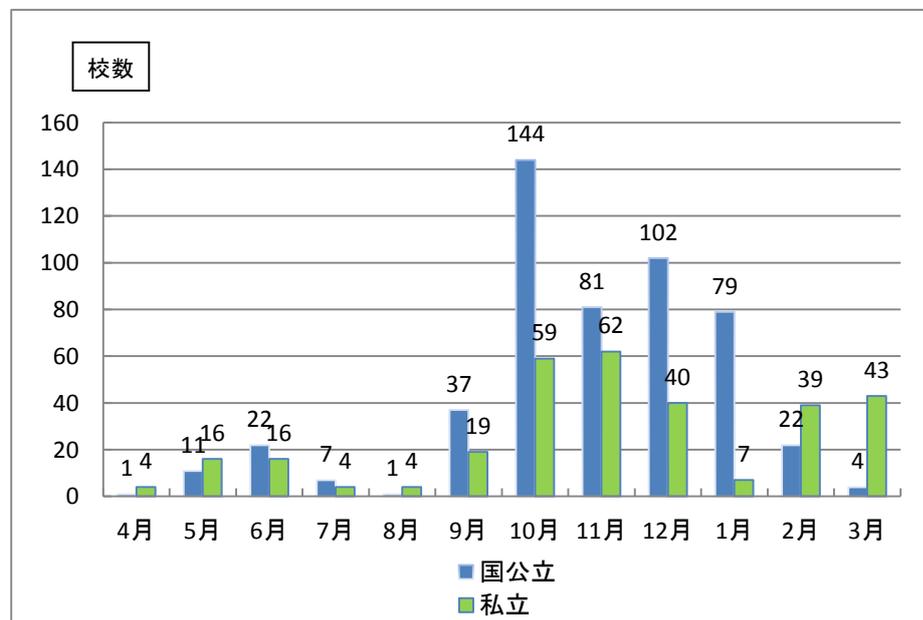
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細についてはデータブック教育旅行年報をご覧ください。

1 修学旅行の実施状況



国内・海外を合わせた修学旅行の実施率は96.8%であり、前回(2013年度実施)の96.9%とほぼ同レベルである。国内と海外の構成比で見ると、前回は国内が83.6%であったが今回は83.3%と若干減り、海外が13.3%から13.5%に若干増えている。

2 国内修学旅行の実施時期

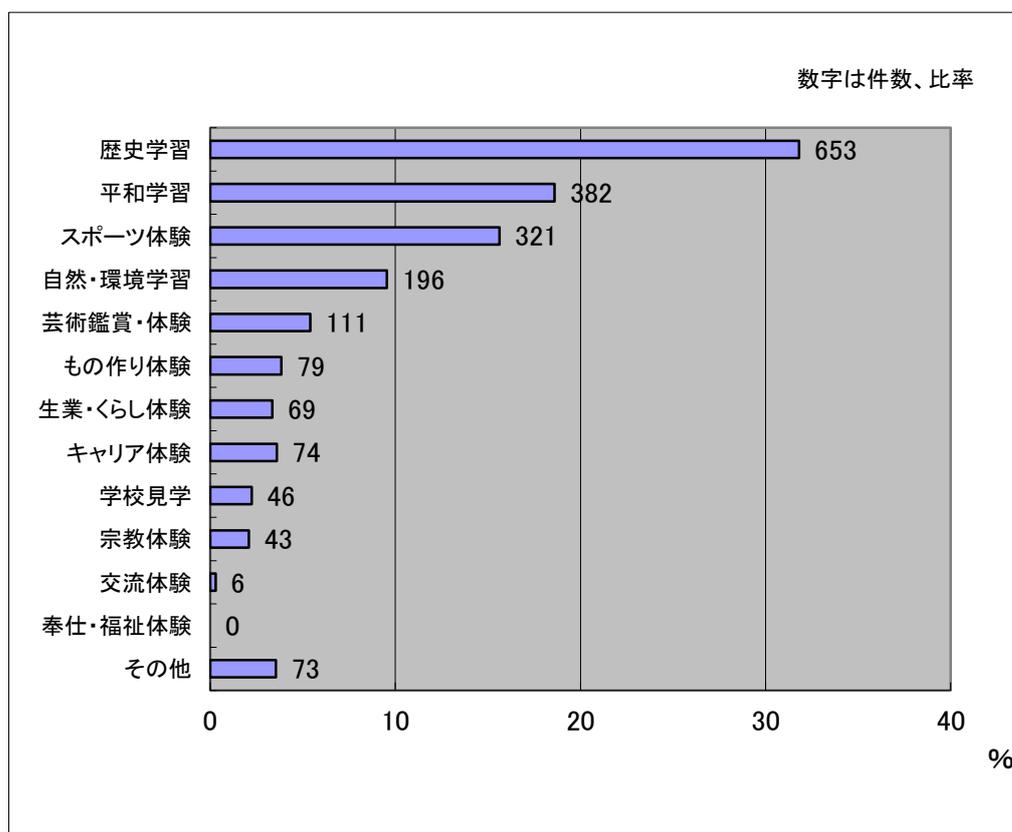


国内修学旅行の実施時期は、10月～12月に実施する学校が全体の59.2%を占めている。国公立校では10月～1月の実施校が年間全体の79.5%を占め、2月～3月の実施校が年々、徐々に減少している。これはスキー修学旅行の減少が反映されているためと考えられる。

3 分類別旅行内容

重点をおいた活動の分類別件数比

(単位:件数/比率)



国内修学旅行で重点をおいた旅行内容を大きく分類し「歴史学習」関連や「平和学習」関連で見ると、「歴史学習(史跡・町並み・産業遺産・博物館の見学等)」に重点をおくものが653件と一番多く全体の31.8%を占める。

続いて「平和学習」が382件(18.6%)、スポーツ体験(スキー・スケート・ラフティング・カヌー等)が321件(15.6%)となり、この3分類内容で全体の70%近くを占める。

一方、2009年度実施の調査(2008年に修学旅行を実施)では「博物館の見学」や「美術館の見学」が上位にきていたが、この6年間で徐々に順位が下がり、代わって「スポーツ体験」や「職場訪問・職場体験」「いなか暮らし体験」などが徐々に上がってきている。



和歌山県民泊マリン体験風景
写真提供:和歌山県商工観光労働部観光局



沖縄県琉球大学との連携によるテーマ別課題解決学習
写真提供:一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

4 都道府県別 旅行先ベスト20

順位	旅行先	件数	構成比%
1 (1)	沖縄	260	15.4
2 (2)	東京	181	10.7
3 (3)	京都	174	10.3
4 (4)	大阪	163	9.6
5 (5)	千葉	148	8.8
6 (7)	奈良	124	7.3
7 (6)	北海道	108	6.4
8 (8)	長崎	79	4.7
9 (9)	福岡	71	4.2
10 (11)	長野	62	3.7
11 (12)	兵庫	60	3.5
12 (10)	広島	56	3.3
13 (13)	神奈川	44	2.6
14 (14)	熊本	42	2.5
15 (15)	佐賀	29	1.7
16 (16)	鹿児島	21	1.2
17 (18)	滋賀	16	0.9
18 (17)	新潟	15	0.9
19 (20)	山口	11	0.7
20 (18)	岡山	10	0.6
その他		17	1.0
合計		1,691	100.0

()順位は前回の順位

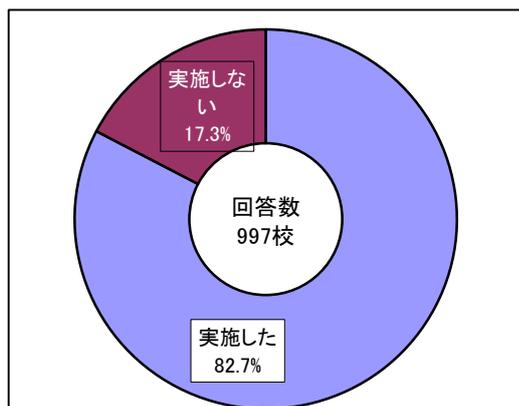
※総件数は1759件

※滞在時間に関係なく訪問した都道府県をカウントした。

(旅行中、複数回滞在してもカウントは1とした)

訪問した都道府県を滞在時間や訪問回数に関係なく旅行先としては1回としてカウントした。その結果、スキー修学旅行や、沖縄・北海道のように比較的一個所に長く滞在する都道府県の順位が相対的に低くなり、京都・大阪・福岡などの周遊型で訪問する府県は順位が上がった。旅行先トップは前回に引き続き沖縄で、2位東京、以下京都、大阪、千葉の順位は前回と同じである。沖縄は平和学習、マリンスポーツ体験、東京は都心部班別活動、京都は寺社等の歴史学習、大阪、千葉はテーマパークの人気の大きな要因であるうか。表にないが、東北は福島が21位(8件)、岩手、宮城、山形が30位(各3件)となっている。上記の東北各県へは九州から8件、関東(東京、神奈川)から3件、近畿(大阪)から5件、岡山から1件合計17件である。

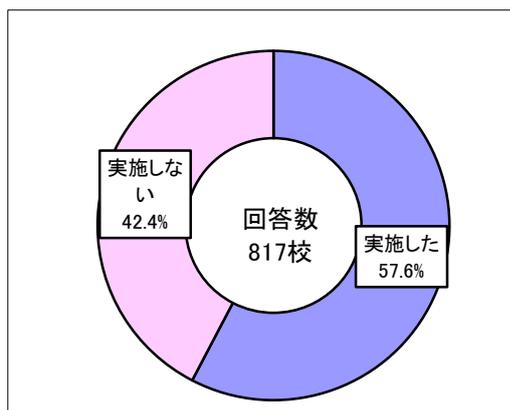
5 班別自主行動実施率



班別自主行動の実施率は82.7%と高く、前回の82.6%、前々回の81.6%からさらに増えており、班別自主行動が修学旅行における一般的な学習形態として定着しているといえる。

班別自主行動の場所では京都市内、那覇市内(国際通り)、東京都内などが人気である。

6 体験学習実施率



体験学習を実施した学校は全体の57.6%であり、前回の59.2%からは若干減ったものの、近年の傾向としては徐々に伸びている。設置者別では公立校の57.9%、私立校では57.2%が実施している。

体験内容では、スポーツ体験、物づくり、農山漁村体験等が多い。体験学習の教育的効果は大きいですが、一方では悪天候時の代替スケジュールの問題や、安全面、費用面での問題等、今後の課題もある。